

# サイバーセキュリティ専門家会議・第 5 回会合向け意見 ～AI 技術の進展・普及に伴うサイバー脅威への対応について～

2026 年 3 月 19 日(木)  
三菱電機株式会社 漆間啓

AI 技術の進展・普及に伴うサイバー脅威への対応については、我が国の分野横断的なセキュリティレベル向上と日本企業の国際競争力強化の両面から議論を深めるべき。AI 技術は欧米が先行する中、**我が国として特に取り組むべき領域を明確にして、戦略的に投資を進めることが重要**と考える。以下 3 点を提言する。

## 1. フィジカル AI 領域におけるサイバーセキュリティ

政府や基幹インフラにおいて、今後加速度的に AI 活用が進む。とりわけインフラの制御・運用に直結する AI の安全性確保は、国家の安定に不可欠。また、製造業の AI 化は産業競争力強化の要であることから、**フィジカル AI が日本の勝ち筋**と考える。この物理世界を動かす AI のサイバーセキュリティに重点投資を行い、**国産技術開発や運用ノウハウの手の内化**を強力に進めるべき。

## 2. ソフトウェア開発におけるセキュリティ確保

SSDF(セキュア・ソフトウェア開発フレームワーク)導入ガイダンスの整備を進めていただき心強く感じている。「バイブコーディング」の発展は目を見張るものがある一方、脆弱性の新たな発生源となる。我が国のサプライチェーン保護・育成の主体性を確保するため、ガイダンスの整備に加え、国産の**セキュアな開発環境のプラットフォーム開発**への投資を進めるべき。

## 3. 人的側面

AI とセキュリティ確保は表裏一体。**AI・セキュリティ双方の人材が正しく相互理解**をすることが不可欠。

また、フェイク動画等の AI が生成する偽情報への対応は、今後の安全保障上の重要課題となる。全ての人々が AI の仕組みや特性を理解し、情報を検証する力や AI を安全に活用する力を早期に養うため、**学校教育におけるカリキュラム確立**を急ぐべき。

以上